＜先週の説教から＞

『ルカ㉟―恐れることはない！』

武田真治牧師

イザヤ書 6：6～8　ルカ福音書　5：8～11

この福音書を記したルカさんは、同時に『使徒言行録』も書いていることは、『使徒言行録』の書き出しから分かります。即ち「テオフィロさま、わたしは先に第一巻を著して、イエスが行い、また教え始めてから、天に上げられた日までのすべてのことについて書き記しました」です。ここで、第一巻と言われている書がこの『ルカによる福音書』です。ということは、この福音書が書かれた時は、すでにイエス様が登場してかなりの時間が経っており、しかも、その後の弟子たちや教会の歩みも知った上で、改めてもう一度、イエス様の言動について振り返り、何が重要であったのか、何に注目すべきだったのかという視点で書いたことが分かるのです。

例えば、今日の箇所も、かなり前に書かれた『マルコによる福音書』では「イエスは、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。イエスは『わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう』と言われた。また、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネを（中略）お呼びになった」と簡単に報告されています。しかし、ルカは同じ場面を、ペテロ個人に集中させて、“ペテロの召命の話”としてドラマチックに報告しています。なぜなのでしょうか？

これはおそらく、この後の“教会の歴史”の中で、ペトロが特に重要人物になっていったこと、また、それ故にルカが生きた同時代の信仰者達も『どのようにしてペトロさんは信者になったのですか？』とか『イエス様はどのようにペトロさんを弟子にされたのですか？』という点を知りたいと願っていたからだと言い得ます。確かに『使徒言行録』もその前半の主役はペトロさんです。反対に、ペトロの弟のアンデレについて、ルカは全く触れていません。あたかもその時に、そこに居なかったように記しているのです。これはうっかり忘れた程度のことではありません（後の１２弟子の名前にはちゃんとアンデレの名前が記されています）。敢えて、抜かしていると言い得ます。不思議ですが、想像されていることは、後の教会の時代になると、アンデレはまさに教会の群れから消えてしまった、或いは、正当な信仰から離れてしまったことを暗示しているとも言われているのです。

また、ルカではイエス様がペトロに「恐れることはない」とまず語り掛けられています。迫害の時代にあったルカにとって、イエス様に“従う”ことはそんなに簡単なことではなく“大変なこと、決意の伴うこと”でした。ルカが改めてこの時のことについて証言を聞き、調べた時に、イエス様が「恐れるな」と言われたことが重要だったと再発見したのです。また「人間をとる漁師になる」の「とる」という言葉を、ルカは、マルコやマタイとは変えて「命のあるまま捕る」という言葉を使っています。なるほど、伝道は決して相手を食い物にするのではない、新しく生きる場所を備えることなのだという“思い・願い”がここに込められているのです！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．２月 12 日（水）20：00
　　Ⅱ．２月 13 日（木）10：30

聖書研究：　ローマの信徒への手紙
祈祷主題：　週報奉仕を覚えて
担当者：　（水）水澤　（木）金刺
祈りに覚える人：　三箇さん　杉村さん

【教勢報告】

主日礼拝　男 15　女 43　計 58
祈祷会　Ⅰ.男３　女１　計４　Ⅱ.男１　女７　計8
日曜学校　幼稚科 12　小中科７　計 19

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【次週礼拝】　２月　１６日（日）

聖　書：　詩編　４１：１～１４
　　ルカによる福音書　５：１７～２０
説　教：「ルカ㊲―彼らの信仰を見て！」
　　武田 真治 牧 師
讃美歌：8(1)、３２、１４０、１９６、４３２、８８

【次週当番表】

司式:飯田長老　奏楽:須田 礼拝:茨木長老
献金：飯島　飯田　受付：飯島　吉岡
会堂準備：木村　小杉　冨澤　長田
　　橋本　北條
看板：曾我　週報：吉岡　お花：羽倉

【次週集会予定】

礼拝前：・聖書輪読会　・求道者会
・お茶の会・牧師と語る会・日曜学校教師会
・幼稚園理事会・オリブの葉編集委員会
・改長協役員会

６６－　６

週　報

2024 年度　教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

２０２５年　２月　９日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**

牧　師　**武田　真治**

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/